

令和6年度 今泉小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- ◇基本目標 豊かな人間性をもち、主体的に判断・行動し、自らの向上と社会の発展を目指してたくましく生きる児童を育成する。
- ◇具体目標 1 明るく思いやりのある子（思いやり）
2 自ら考え進んで学ぶ子（創造力）
3 元気で、やりぬく子（体力・気力）
- 合言葉「今泉の子 やさしく かしこく たくましく」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「明るく 楽しく 喜びいっぱい 心のふるさと今泉小」（キャッチフレーズ）の創造
—家庭、地域の信頼と協力の基、誰もが夢や希望を抱き、喜びややりがいをもって生き生きと生活し個々の力を伸長できる、児童、家庭、地域とともに歩む学校—

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 自ら進んで考え、楽しく学び合う人づくり
・学習のねらいをより具体化・明確化する工夫と、地域教育力の積極的な活用
- (2) 当たり前のことが自然にできる人づくり
・縦割り班活動（にこにこ活動）の充実と、地域ぐるみのあいさつ運動
- (3) 自ら健康や体力づくりに励み、たくましく生きる人づくり
・体育授業や体育的行事等の充実と、家庭との連携を図った食育の推進
- (4) 愛情や誇りを感じ、夢や希望のもてる学校づくり
・児童が今泉小のよさを実感し、愛情や誇りのもてる学校経営
- (5) 9年間の学びをつなぎ、地域とともに歩む学校づくり
・地域内小中学校、保護者、地域、団体、企業などとの連携・協力体制の構築
- (6) 教職員がやりがいを持ち、生き生きと勤務できる学校づくり

[泉が丘地域学校園教育ビジョン]

望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成
～学びの泉 おもいやりの泉 げんきの泉～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係諸法令や学習指導要領、とちぎ教育ビジョン2025、第2次宇都宮市学校教育推進計画、学校教育スタンダード、令和6年度指導の重点、泉が丘地域学校園教育ビジョンを踏まえ、教科横断的な視点を意識しながら編成する。
- (2) 児童がもつ個々の力を伸ばすことを目指し、教育目標、本年度の学校経営方針、重点目標の具現化を図ることができるよう編成する。
- (3) 本校の歴史と伝統を大切に、児童の実態や本校の特色、地域の教育力を生かした特色ある教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
○「地域はみんなの学校」を目指し、地域内小中学校、保護者、地域、団体、企業などとの連携・協力体制を構築し、地域の教育力を生かした教育活動による人づくりに努める。
・様々な「ふれあい」と「学び合い」により、たくさんの「よろこび」を味わうことで自信を深め、個々の力を伸長できる学校づくりに努める。
・児童と向き合う時間と質の高い教育を確保するため、校務の適正化と効率化を推進する。

(2) 学習指導

○「自ら考え進んで学び合う児童の育成を目指して」

～子ども一人一人が「学ぶ」喜びを味わうことができる支援の工夫～

- ・児童一人一人が学びを実感し、主体的に学びに向かう授業実践
- ・特別支援教育の視点を踏まえた支援の充実

(3) 児童指導

○家庭・地域・学校園と連携して取り組む安全・安心の学校づくり

～人とのつながりを大切にし、自分の成長を意識できる児童をめざして～

- ・基本的生活習慣の育成と規範意識の醸成
- ・望ましい人間関係づくりと個に応じた問題行動対策
- ・安全指導の強化
- ・家庭、地域、関係機関等との連携

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

○児童一人一人が主体的に健康や体力づくりに励み、たくましく生きる人づくり

- ・望ましい食習慣の育成
- ・基本的な健康習慣の定着と体力向上
- ・安全に関する意識の向上
- ・家庭、地域との連携協力

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価															
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、粘り強く学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上	① 学習の問題をつくり、調べ、考え、話し合う、という問題解決的な学習を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。 ② 自分の考えを発表できるような場を設けるとともに、自己表現とコミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫をする。 ③ <u>地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」を活用して、児童・保護者に家庭学習について啓発を図り学習意欲の向上を図る。</u>	B	【達成状況】 <table><tr><th></th><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>R6</td><td>91.4</td><td>97.4</td><td>90.8</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>87.3</td><td>100.0</td><td>93.0</td><td></td></tr></table> ・児童・教職員・保護者の肯定的回答は数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ①引き続き、学習の問題をつくり、調べ、考え、話し合う、という問題解決的な学習を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。 ②自分の考えを発表できるような場を設けるとともに、自己表現とコミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫をする。 ③地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」を活用して、児童・保護者に家庭学習について啓発を図り学習意欲の向上を図る。		児童	教職員	保護者	地域	R6	91.4	97.4	90.8		R5	87.3	100.0	93.0	
	児童	教職員	保護者	地域															
R6	91.4	97.4	90.8																
R5	87.3	100.0	93.0																
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上	① 朝の会や帰りの会で、児童の善い行いを互いに認め、称賛し合う場を設定する。 ② 道徳科において、物語の内容から自分自身を見つめ、登場人物に共感して自分のこととして考えることができるような授業を行う。 ③ 児童会活動や縦割り班活動などの異学年活動を通して、互いを思いやる心を育む。 ④ 明確なねらいをもち、幼・保・中・高・地域の人との交流活動に進んで取り組む。	B	【達成状況】 <table><tr><th></th><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>R6</td><td>92.1</td><td>97.4</td><td>95.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>91.6</td><td>100.0</td><td>95.2</td><td>100.0</td></tr></table> ・昨年度に比べ、教職員、保護者共に肯定的回答が下がってはいたが、どれも肯定的回答が数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①②③相手の気持ちを考え、行動できるよう、生活場面、学級活動、道徳の時間、児童会活動において、継続的に指導、支援をしていく。 ④幼・保・中・地域の人との交流活動において、思いやりの心をもてるように働きかけたり、直接関わるができるような活動を設定したりする。		児童	教職員	保護者	地域	R6	92.1	97.4	95.0	100.0	R5	91.6	100.0	95.2	100.0
	児童	教職員	保護者	地域															
R6	92.1	97.4	95.0	100.0															
R5	91.6	100.0	95.2	100.0															

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 根気強く取り組むことの大切さを学んだり、思いや願いを生かした課題を実践したりして、振り返り時に達成感を味わうことができるようにするとともに、児童の取組の様子を各種たよりや学校ホームページによって家庭・地域に発信する。 ② 児童の自己肯定感を高められるように、児童相互に認め合う場を設け、教職員も認め励ます指導に努める。 ③ めあてカード、学習カード、ワークシート等の活用により達成感や充実感を味わえるようにする。また、活動の始めと終わりを比べて「できる」ようになったことを明確にして、更に意欲を高めるようにする。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>90.1</td><td>97.4</td><td>86.7</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>89.2</td><td>100.0</td><td>84.3</td><td></td></tr></table> ・昨年度に比べ、教職員の肯定的回答が減ったものの、全体の数値指標は達成できた。 【次年度の方針】 ① 各活動においてめあてを立て、励ましの言葉を掛けたり支援したりすることで粘り強さを育成し、振り返りでは達成感を味わえるようにする。また、励ましの言葉を掛けることや、児童の頑張りの様子を家庭に発信することなどを通して、粘り強く課題に取り組む児童を育成する。 ② 児童同士が相互に認め合う場を設け、教職員も認め励ます指導に努めることで、自己肯定感を高められるようにする。 ③ 各種カードを有効に活用し、活動始めと終わりを比べて「できる」ようになったことを明確にすることで、次への意欲を高めることができるようにする。		児童	教職員	保護者	地域	R6	90.1	97.4	86.7		R5	89.2	100.0	84.3	
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	90.1	97.4	86.7															
R5	89.2	100.0	84.3															
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上	① 体力テストや各種検定の結果から児童の体力の実態を把握し、体育の授業の充実に努める。 ② ほけんだよりや掲示物を通じ、健康に関する情報を発信し、児童の健康への関心を高める。 ③ 日常の給食指導や家庭で「食」について考える機会として「お弁当の日」や年2回の「食育チャレンジシート」を実施し関心を高める。 ④ 避難訓練・交通安全教室等、安全教育を通して、自分の命を守るための行動力を身に付けられるようにする。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>93.4</td><td>100.0</td><td>94.6</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>92.9</td><td>100.0</td><td>91.5</td><td>100.0</td></tr></table> ・肯定的回答が数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ① 体力テストや各種検定の結果から児童の体力の実態を把握し、体育の授業の充実に努める。 ② ほけんだよりや掲示物を通じ、健康に関する情報を発信し、児童の健康への関心を高める。 ③ 学校の給食指導や家庭で「食」について考える機会として、年2回のお弁当の日（おにぎりの日1回）、夏休みと冬休みに「食育チャレンジシート」を実施し、子どもたちの食への関心を高める。 ④ 避難訓練・交通安全教室等、安全教育を通して、自分の命を守るための行動力を身に付けられるようにする。		児童	教職員	保護者	地域	R6	93.4	100.0	94.6	100.0	R5	92.9	100.0	91.5	100.0
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	93.4	100.0	94.6	100.0														
R5	92.9	100.0	91.5	100.0														
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分のよさや考えを生かしたり、周りとの協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 学級経営を核に「宮キャリア教育」や、地域・企業の協力を得た社会体験活動を通し、児童が自らの良さや成長に気付き、周りの人や社会とのつながりを意識できるようにする。 ② 学級活動・児童会活動の充実を図り、児童の考えを取り上げる場を設定し、自己有用感を高める。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>89.1</td><td>94.9</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>89.3</td><td>100.0</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員、児童の肯定的回答率が数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 宮未来キャリア教育や、地域・企業の協力を得た社会体験活動を通し、児童が自らの良さや成長に気付ける機会を増やす。また、周りの人と社会のつながりを意識させるようにする。 学級活動・児童会活動の充実を図り、児童の考えを取り上げる場を意識して設定し、自己有用感を高める。		児童	教職員	保護者	地域	R6	89.1	94.9			R5	89.3	100.0		
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	89.1	94.9																
R5	89.3	100.0																

2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動（英語）の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 研修の充実により、教員の授業力の向上を図るとともに、ALTを効果的に活用した授業を工夫する。 ② 生きた英語に触れる機会の充実を図り、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・ALTとの交流の場の工夫 ・学校行事等へのALTの参加 ③ 外国語活動に向けた環境整備の推進に努める。 ・教材等、備品の管理の工夫 ・校内掲示の工夫	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>83.5</td><td>92.3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>81.1</td><td>89.7</td><td></td><td></td></tr></table> ・児童、教職員における今年度の達成状況は、目標としていた数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ①教職員が気軽に実践につなげられるよう、授業で使える英語のフレーズやALTとの授業の進め方などの研修を行う。 ②児童が自信をもって外国語を活用できるようにするために、ALTと気軽に交流できる場の工夫を行う。 ③児童の実態に合わせて、教材・教具を作成したり、校内掲示を工夫したりすることで、学習に向けた環境づくりに努める。		児童	教職員	保護者	地域	R6	83.5	92.3			R5	81.1	89.7		
		児童		教職員	保護者	地域													
R6	83.5	92.3																	
R5	81.1	89.7																	
A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 生活科や社会科、総合的な学習の時間における「宇都宮学」を通して郷土への愛情と誇りをもてるようにする。 ② 特別活動（学校行事等）における体験的な学習の場を設定し、興味関心を高める。 ③ 宇都宮の伝統文化、行事や催しを知る機会を設け啓発を行う。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>87.0</td><td>94.9</td><td>84.0</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>80.7</td><td>94.9</td><td>80.1</td><td></td></tr></table> ・全てにおいて数値指標を上回り、前年度よりも児童・保護者ともに肯定的回答の割合が高まった。保護者に対して取組の周知ができたのだろう。 【次年度の方針】 ① 地域を学ぶ学習を通して、児童が郷土への誇りと愛情がもてるようにするとともに、保護者に児童の様子を今後 も発信していく。 ② ③「宇都宮学」等において充実した指導ができるよう教材研究を行う。また宇都宮の伝統文化を学ぶなど、特別活動（学校行事）等における体験的な学習の場を増やす。		児童	教職員	保護者	地域	R6	87.0	94.9	84.0		R5	80.7	94.9	80.1		
	児童		教職員	保護者	地域														
R6	87.0	94.9	84.0																
R5	80.7	94.9	80.1																
2ー(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 各教科等の学習において、個人用PC等のICT機器や図書等を効果的に活用しながら、児童の主体的な学習を推進する。 ② 情報教育主任によるICT機器の活用法等の情報発信を適切に行い、児童の発達段階に応じた指導を継続的に行う。 ③ 情報教育主任やICT支援員、学校図書館司書と連携し、学習に必要な教材・教具、図書の充実を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>93.2</td><td>97.4</td><td>86.9</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>86.4</td><td>94.9</td><td>88.7</td><td></td></tr></table> ・教職員、児童の肯定的回答が 90%以上で数値指標を上回った。保護者の肯定的回答は86%で昨年を下回る結果となった。 【次年度の方針】 ①各教科で単元の目標に応じたデジタル機器・図書の活用を工夫し、児童の主体的な学習に役立てるようにする。 ②次年度もパソコン活用研修を実施することにより、教職員のデジタル活用能力の向上を図っていく。 ③学習に役立つ教材・教具の、図書資料の整理・保管に努め、有効に活用できるようにする。		児童	教職員	保護者	地域	R6	93.2	97.4	86.9		R5	86.4	94.9	88.7	
	児童	教職員		保護者	地域														
R6	93.2	97.4	86.9																
R5	86.4	94.9	88.7																

2ー(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 読書活動において、環境やエネルギー、防災などの書籍を紹介し、日常生活と地球の課題の関連に気付く機会をもち、継続して指導する。 ② 委員会活動や各教科において省エネ運動、リサイクル活動に取り組み、環境問題についての関心を高めるとともに実践力を高めていく。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>90.8</td><td>82.1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>87.4</td><td>82.1</td><td></td><td></td></tr></table> ・児童、教師ともに、肯定的回答は数値的指標を達成した。特に児童の数値が上がっていた。 【次年度の方針】 ① 読書活動における具体的な取組を、次年度も継続して行う。指導の中で、児童の実践力を高めて行く。 ② 委員会活動・学級活動・各教科での活動において、具体的な取組の実践化を図る。		児童	教職員	保護者	地域	R6	90.8	82.1			R5	87.4	82.1		
		児童		教職員	保護者	地域													
R6	90.8	82.1																	
R5	87.4	82.1																	
3ー(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童の実態を把握するとともに保護者と情報交換しながら適切な支援を行い、互いに個性を認め合い、居がいのある温かな学級づくりに努める。 ② 情報交換会を定期的に行うとともにケース会議を活用し、情報共有と支援方針の共通理解を図る。 ③ 特別支援教育コーディネーターを中心に研修を行うとともに個別支援計画に基づいた支援機能の充実を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>97.4</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>89.7</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率が数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ① 保護者と情報交換をし、児童の実態把握をした上で、教職員相互が連携し協力した支援の取組ができるようにする。 ② 学校全体で児童に関する情報を共有する場を設定し、児童に関する情報を周知することを意識した情報伝達を行ったり、ケース会議等を十分活用したりすることで、確実な情報の共有と支援方針の共通理解に努める。 ③ 特別支援教育に関する研修を行うとともに、学校生活の様々な場面において、個別の支援計画に基づいた適切な指導・支援ができるような機能の充実を図る。		児童	教職員	保護者	地域	R6		97.4			R5		89.7		
	児童	教職員		保護者	地域														
R6		97.4																	
R5		89.7																	
3ー(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① ①「今泉小学校いじめ防止基本方針」のもと、いじめの早期発見・早期対応や全校体制での支援に努める。 ② 学年だよりやさくら連絡網等を通じて、実際に行っているいじめ対策をより積極的に家庭に発信し、啓発に努める。 ③ 「友達アンケート」や教育相談週間を充実させることで、実態把握に努める。 各教科・道徳・学級活動・日常生活の指導を通して、いじめを許さない児童の育成に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>97.9</td><td>100.0</td><td>85.9</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>97.1</td><td>100.0</td><td>85.6</td><td>91.7</td></tr></table> ・児童の肯定的回答の数値指標に届いた。児童・保護者の肯定的回答は前年度に比べ微増した。 【次年度の方針】 ① いじめの初期対応の確認や、職員間での定期的な情報共有に取り組み組織的な対応に努める。 ② 学年だよりやさくら連絡網を通じて、関連する取組や保護者への周知を図る。 教育相談週間や友達アンケートを充実させ実態把握に努める。		児童	教職員	保護者	地域	R6	97.9	100.0	85.9	100.0	R5	97.1	100.0	85.6	91.7
	児童	教職員		保護者	地域														
R6	97.9	100.0	85.9	100.0															
R5	97.1	100.0	85.6	91.7															

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 一人一人のよさを認め、励ますような温かい雰囲気学級のづくりに努める。 ② 児童同士がとにかかわり合い、望ましい人間関係を醸成することができる活動を取り入れる。 ③ 児童が主体的に活動する場面や、一人一人がよさを発揮して活躍できる場面を設定し、活動後の振り返りや、教員の称賛や励ましの声掛けにより、自己肯定感を高められるようにする。 欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>97.0</td><td>97.4</td><td>96.2</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>96.7</td><td>92.3</td><td>92.2</td><td></td></tr></table> ・児童の肯定的回答は数値指標に到達し、前年度に比べて微増した。 【次年度の方針】 ① すべての教職員が児童への接し方や学級経営の意識を高める。 ② 係活動や当番活動など、児童同士で関わる活動を充実させたり、学級の和を高める機会・場面を多く設定したりして、児童間の人間関係の醸成に努める。 ③ 教職員による日頃の声掛けや、児童の行動に関する価値づけに積極的に取り組むことで、児童の自己肯定感を高める。		児童	教職員	保護者	地域	R6	97.0	97.4	96.2		R5	96.7	92.3	92.2	
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	97.0	97.4	96.2															
R5	96.7	92.3	92.2															
3ー(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	① 休み時間における「共遊」等、児童と向き合う時間を確保し、実態の把握に努め、意図的な声掛けや面談を行うようにする。 ② 特別支援教育コーディネーターを中心に、情報の共有と支援方針の共通理解を図りながら、保護者や関係機関と連携・協力し、個々の状況に応じた支援を行う。 ③ 教育活動全体を通して、児童の主体的な活動の場を設定し、児童の思いを生かした活気ある明るい学校づくりを推進する。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>97.9</td><td>100.0</td><td>91.6</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>96.7</td><td>97.4</td><td>90.1</td><td>100.0</td></tr></table> ・児童、教職員、保護者の全てで数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ① ロング昼休みなどでの「学級遊びの時間」を活用し、児童の実態把握に努める。 ② 学級担任が管理職や特別支援教育コーディネーターに情報提供を迅速に行うことで、保護者や関係諸機関と連携・協力し、適切かつ継続した支援を行うよう努める。 ③ 学級での係活動や学校行事等を通して、児童が主体的に活動できる場を設定するとともに、活動内容の精選を図る。		児童	教職員	保護者	地域	R6	97.9	100.0	91.6	100.0	R5	96.7	97.4	90.1	100.0
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	97.9	100.0	91.6	100.0														
R5	96.7	97.4	90.1	100.0														
4ー(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 校内研修等で、授業を互いに公開し、互いに高め合いながら授業力の向上に努める。 ② ねらいを明確にした分かりやすいきめ細かな授業を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 ③ 授業の展開や学習形態を工夫しながら、自分の思いや考えを表現し合い、互いに学び合う学習を推進する。 ④ 学年の実態に応じて、教科担任制や少人数による習熟度別学習を実施し、児童一人一人が分かる授業の展開に努める。 ⑤ 今泉人材バンクや地域の施設を活用した体験的な学習を推進する。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>98.5</td><td>97.4</td><td>87.1</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>97.8</td><td>97.4</td><td>89.9</td><td></td></tr></table> ・児童・教職員の肯定的回答は数値指標を上回ったが、保護者の肯定的回答は数値指標を下回った。 【次年度の方針】 ① 校内研修等で、授業を互いに公開し、互いに高め合いながら授業力の向上に努める。 ② ねらいを明確にした分かりやすいきめ細かな授業を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 ③ 授業の展開や学習形態を工夫しながら、自分の思いや考えを表現し合い、互いに学び合う学習を推進する。 ④ 学年の実態に応じて、教科担任制や少人数による習熟度別学習を実施し、児童一人一人が分かる授業の展開に努める。 ⑤ 今泉人材バンクや地域の施設を活用した体験的な学習を推進する。		児童	教職員	保護者	地域	R6	98.5	97.4	87.1		R5	97.8	97.4	89.9	
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	98.5	97.4	87.1															
R5	97.8	97.4	89.9															

4ー(2) チーム力の 向上	A 15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わ る職員全員がチームとなり、 協力して業務に取り組んでい る。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 学年主任や各教科・領域等主任の 組織的な連携を図るために、学校 内の情報共有と活用に努める。 ・管理職による総合的な連絡調整 の実施 ・共通理解を図るために学年主任 会の実施 ・校務分掌、授業研究における学 年の枠を超えた編成 ② 専門スタッフとの打合せの機会 を持ち、情報共有を行うことで、 専門性を生かした連携体制を強 化する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>92.3</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>89.7</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答は指標を上回った。 組織的な連携体制が機能し、効果を上げて いる。 【次年度の方針】 ① 教育課程の再編成により生み出され た放課後の時間を有効活用し、さら に校内の連携を深める。 ② 外部講師や関係諸機関との情報共有 を行い、引き続き専門性を生かした連 携体制を強化する。		児童	教職員	保護者	地域	R6		92.3			R5		89.7		
	児童	教職員	保護者	地域															
R6		92.3																	
R5		89.7																	
4ー(3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A 16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、教職 員の勤務時間を意識して業務 の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 教職員一人一人が、勤務時間の自 己管理を通して、勤務時間を意識 した働き方に努める。 ② 学年や校務分掌のチームで業務 の精選を行うとともに、学習情報 システムやＩＣＴ機器を有効に 活用し、業務の軽減や効率化を図 る。 ③ 「リフレッシュウィーク」を設定 し、教職員の意識付けを図るとと もに、互いに声を掛け合う望まし い雰囲気づくりに努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>87.2</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>82.1</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答は指標を上回った。 勤務時間の自己管理や、業務の軽減が効率 化につながった。 【次年度の方針】 ① 勤務時間や業務内容の違いを相互に 理解し勤務時間を意識した協働さ方 に努める。 ② 業務内容を整理し、たり、行事や文書 処理などにおいて、具体的な業務の精 選を行う。 リフレッシュデーの持ち方や方法につい て検討し実施する。		児童	教職員	保護者	地域	R6		87.2			R5		82.1		
	児童	教職員	保護者	地域															
R6		87.2																	
R5		82.1																	
5ー(1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A 17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、地 域学校園の小学生や中学生、 先生と、授業や行事、掲示物 などで交流する活動を行って いる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 地域学校園共同開催行事を計画 的・継続的に実施し、中学生との 交流を深める。 ② 小中合同のあいさつ運動や中学 校訪問、乗り入れ授業の機会を通 して、児童生徒の交流と相互理解 を推進する。 ③ 「地域学校園・小中一貫教育」の 取組を各種たより等で、家庭・地 域に発信していく。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>90.7</td><td>89.7</td><td>84.2</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>88.2</td><td>84.6</td><td>84.3</td><td>100.0</td></tr></table> ・児童の肯定的回答は数値指標を上回っ た。 【次年度の方針】 ① 地域学校園共同行事についてはコロナ 禍前にほぼ戻っており、課題の改善を行う ことで、各行事の充実を図っていく。 ② あいさつ運動については、中学校生徒 会との交流を進めることで、児童生徒の相 互理解を推進していく。 ③ 各種便り等での発信を年間を通して 行うとともに、学級懇談会等の場でも 発信していく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	90.7	89.7	84.2	100.0	R5	88.2	84.6	84.3	100.0
	児童	教職員	保護者	地域															
R6	90.7	89.7	84.2	100.0															
R5	88.2	84.6	84.3	100.0															

5-（2） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 85%以上	① 今泉小地域協議会、今泉地区コミュニティセンターと連携し、地域の学校づくりを積極的に推進するとともに、学校運営の充実を図る。 ② 地域協議会・地域学校協働活動推進員等と連携し、 <u>地域人材や地域資料を有効活用した教育活動を推進する。また、保護者にも更にボランティア等の協力を仰ぎ、学校と家庭との連携も強めていく。</u> ③ <u>泉が丘地域学校園との連携・協力をより一層推進し、望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童の育成に取り組む。</u> ④ 学校公開や各種通知、学校ホームページ等を活用し、情報の積極的な発信を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>92.8</td><td>94.9</td><td>93.9</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>92.9</td><td>89.7</td><td>95.6</td><td>100.0</td></tr></table> ・肯定的回答は、数値指標を全て上回った。 【次年度の方針】 ① 地域協議会、今泉地区コミュニティセンターなど、地域と連携した取組を継続し、地域の教育力を生かした教育活動の工夫を図っていく。 ② 地域人材や保護者、大学生等の学校支援ボランティアの活用を充実し、学校と家庭・地域の連携を強化していく。 ③ 地域学校園の各部会・分科会の連携を密にすることで、泉が丘地域学校園教育ビジョンである「望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童生徒の育成」を図っていく。 ④ 家庭や地域へ積極的に情報発信し、学校の取組の理解を図ることで、学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を推進していく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	92.8	94.9	93.9	100.0	R5	92.9	89.7	95.6	100.0
	児童	教職員		保護者	地域														
R6	92.8	94.9		93.9	100.0														
R5	92.9	89.7	95.6	100.0															
5-（3） 地域と連携・協働した学校づくりの推進																			
6-（1） 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	① 教職員の危機管理意識を高め、施設・設備、器具・用具等の定期的な安全点検の実施に取り組む。 (定期点検 臨時点検 日常点検) ② 行政担当課や機動班等と迅速に情報を共有し、施設等の維持管理や改善に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>89.7</td><td>93.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>94.9</td><td>90.9</td><td>100.0</td></tr></table> ・保護者・地域住民の肯定的回答は指標を上回った。 【次年度の方針】 ① 安全点検結果に基づく、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりに取り組む。 ② 関係諸機関との迅速な情報共有を行い、施設等の維持管理や改善に努める。		児童	教職員	保護者	地域	R6		89.7	93.0	100.0	R5		94.9	90.9	100.0
	児童	教職員		保護者	地域														
R6		89.7		93.0	100.0														
R5		94.9	90.9	100.0															
6-（2） 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 ※デジタル・・・一人一台端末、ミライム、スズキ校務、さくら連絡網など ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	① 教職員が授業で効果的にICT機器を活用できるよう、ICT支援員や情報教育主任と連携した研修を通して、教職員の技能向上を図る。 ② ICT機器、各種システムを積極的に活用し、教職員同士及び保護者等との情報の共有化を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>89.7</td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>87.2</td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答は 89.7%で、数値目標の 85%を上回った。 【次年度の方針】 ①本年度のようにICT支援員や情報教育主任と連携した研修を通して、教職員の技能向上を図る。生成AIを活用した校務の軽減等をテーマにした研修を実施したい。 ②学年だより等で、学習で活用している様子を保護者に発信することにより情報の共有化を図りたい。		児童	教職員	保護者	地域	R6		89.7			R5		87.2		
	児童	教職員		保護者	地域														
R6		89.7																	
R5		87.2																	

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 教職員が率先垂範に努めるとともに、校内掲示や各種たより、学校ホームページ等により児童・保護者への啓発に努める。 ② 児童会主体で、あいさつ運動を計画的・継続的に推進する。 ③ <u>小中一貫学校園と連携したあいさつ運動の推進を図る。特に、登下校時の挨拶の徹底を図るようにする。</u> ④ 「友達アンケート」にチェック項目を入れ、振り返りを行い、児童の自発的な挨拶を促す。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>93.4</td><td>100.0</td><td>84.4</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>91.6</td><td>97.4</td><td>88.2</td><td>92.9</td></tr></table> ・肯定的回答は、数値指標を全て上回った。 【次年度の方針】 ① 各種たより等で児童・保護者・地域への啓発に努める。 ②③児童会主体で、あいさつ運動を計画的・継続的に推進する。(小中一貫学校園と連携) 登下校時の挨拶が積極的に行えるように声を掛け、自発的な挨拶を促す。 ④ 振り返りを行うことで自分の挨拶について見つめ直す機会を作る。		児童	教職員	保護者	地域	R6	93.4	100.0	84.4	100.0	R5	91.6	97.4	88.2	92.9
		児童	教職員	保護者	地域													
	R6	93.4	100.0	84.4	100.0													
R5	91.6	97.4	88.2	92.9														
B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	① 家庭や地域社会との連携を充実させ、「今泉小のあたりまえ」(挨拶・廊下の歩行・次の準備・身だしなみ・言葉遣い)を指針に更なる学級指導や全体への児童指導を通して規範意識を高める。特に「あいさつ」を重点目標とする。 ② 「友達アンケート」に「今泉小あたりまえ五か条」のチェック項目を入れ、振り返りをさせることで、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。 ③ 生活当番による校内の巡視を通して、児童の生活の様子を把握し、全校体制で指導に当たるようにする。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>93.2</td><td>97.4</td><td>94.5</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>94.5</td><td>100.0</td><td>94.4</td><td>100.0</td></tr></table> ・肯定的回答は、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ① 学級指導や全体への児童指導を通して「今泉小のあたりまえ五か条」の定着を図るとともに規範意識を高める。特に挨拶を重点とする。 ② めあてをもった取組、振り返りを十分に行うとともに、児童の自発的な取組を更に支援する。 ③ 安全点検や安全指導の徹底を図り、児童が安全で快適に生活できるように努める。		児童	教職員	保護者	地域	R6	93.2	97.4	94.5	100.0	R5	94.5	100.0	94.4	100.0	
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	93.2	97.4	94.5	100.0														
R5	94.5	100.0	94.4	100.0														
B 3 児童は、学校のよさを実感し、自校への愛情や誇りをもっている。 【数値目標】 全体アンケート「私は、学校のよいところや自慢できることを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 共に生きる力を育てる活動の充実を図る。 ・縦割り班活動 (なかよし班活動 縦割り清掃) ・特別支援学級と通常の学級との交流 ・体験活動の充実 ② 自他の違いを理解し、尊重し合い支え合う望ましい学級集団づくりを目指す活動の充実を図る。 ③ 望ましい食習慣の定着を図る。 ・栄養士による授業 ・各たより発行による啓発と家庭との連携 ・お弁当の日の活用 ④ 地域の教育力を積極的に活用し連携を図る。 ・地域の団体・施設と連携した教育活動 ・防災訓練や下校時の見守り	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>R6</td><td>87.6</td><td>100.0</td><td>90.2</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>84.3</td><td>94.9</td><td>88.9</td><td>100.0</td></tr></table> ・児童の肯定的回答は、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 ① 引き続き、特別支援学級と通常の学級との交流及び協同学習を進め、共に生きる力を育てる活動の充実を図っていく。 ② 一人一役など一人一人の居場所づくりを進めつつ、互いに支え合う望ましい学級集団づくりを充実していく。 ③ 栄養士による授業や各たよりによる啓発等を推進し、望ましい食習慣の定着を図っていく。 ④ 地域との合同防災訓練や下校時の見守りなど、地域と連携した活動を通して、地域の教育力の有効活用をしていく。		児童	教職員	保護者	地域	R6	87.6	100.0	90.2	100.0	R5	84.3	94.9	88.9	100.0	
	児童	教職員	保護者	地域														
R6	87.6	100.0	90.2	100.0														
R5	84.3	94.9	88.9	100.0														

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～A9）】

- ・本校の学習指導の学習指導の重点課題に関わる項目、A1「主体的に学習に取り組む態度」についての肯定的回答は、全ての対象で目標数値を上回った。引き続き、基礎学力の向上を目指した取り組みを継続していく。
- ・A2「思いやりの心」についての肯定的回答は、昨年度に比べ下がったものの、数値目標は達成した。さらに幼保中高、地域の方々との交流活動において、思いやりの心を持てるよう、関りを大切にした活動の設定に取り組みたい。
- ・A3「目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む態度」は、全ての対象で数値目標は達成した。特に保護者の肯定的回答は、宇都宮市の平均と比べ、5ポイント上回っている。引き続き各活動において、「めあて」や「振り返り」を通して達成感を高めたり、各種カードを活用したりして、意欲を高めていきたい。
- ・A7「宇都宮の良さ」については、全ての対象で数値目標は達成した。特に保護者の肯定的回答は、宇都宮市平均よりも10ポイント高かった。これからも宇都宮の伝統文化を学ぶ場や、体験的な活動の場を増やしていきたい。

【目指す学校の姿（評価項目：A10～A20）】

- ・A11、A12「いじめや不登校」に関する項目は、全ての対象で数値目標を達成した。教育相談週間や、友達アンケートを活用し、児童の実態把握と情報共有に取り組んでいく。
- ・A13「学校の雰囲気」に関する項目は、全ての対象で数値目標を達成した。特に保護者の市の平均よりも4ポイント肯定的回答が高かった。教育活動全体を通して児童の主体性を大切にし、児童の思いを生かした活気ある明るい学校づくりを推進していく。
- ・A14「わかる授業ときめ細やかな指導、学力向上」に関する項目については、全ての対象で数値目標を達成した。より確実に学習内容の定着が図れるようにしていく。また、個に応じた指導の充実を図っていく。

【本校の特色等（評価項目：B1～B3）】

- ・B1「あいさつ」、B2「きまりやマナー」に関する項目は、全ての対象で数値目標を達成した。特にあいさつを重点的とし、「今泉小あたりまえ5か条」のさらなる定着を図るとともに規範意識を高めていきたい。
- ・B3「学校のよさや愛校心」に関する項目は、全ての対象で数値目標を達成した。昨年度よりさらに数値が高くなっている。自他の違いや尊重しあえる集団づくりや、地域の教育力の活用のための連携体制の強化を図っていきたい。

7 学校関係者評価

- ・授業参観では、児童が真剣に取り組む姿が見られた。普段は活発な児童をどのように指導しているのかも知りたい。また、教職員が児童一人一人に向き合い、熱意をもって指導に取り組んでいる姿勢が感じられた。
- ・1年生から6年生までパソコンを積極的に活用していて驚いた。早い時期から身に付けるようにすると、抵抗なく自然に身に付くのだと感心した。
- ・児童は挨拶がよくできている子とそうでない子がいる。家庭の教育力も大きく関係しているのではないかな。
- ・PTAも児童の安全のために登下校の見守りを熱心に行っている。LRTの開通に伴う環境の変化もあり、今後も交通安全指導に力を入れていきたい。
- ・「おはようございます」「ありがとうございます」という言葉が自然に出る子が多くなっている。
- ・保育園との交流活動では、児童が一生懸命に活動していた。互いに教育効果は高く、今後も実施してほしい。
- ・地域協議会の主催で「教育講演会（親学講座）」を授業参観日にオンラインで実施した。思春期の子育てについての内容が保護者に大変好評だった。
- ・今後も目標の達成に向けて、教職員・保護者・地域が三位一体になって取り組んで行くことが大切である。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・教職員の教育活動や児童の様子等について概ね肯定的な評価を得ることができ、ほぼ全ての項目で数値指標を上回っていた。今後、学校の自己評価や保護者・児童・地域からの評価、意見を基に次年度の計画について検討していく。
- ・今後も地域や保護者の思いや願いに十分に耳を傾け連携した取組を積極的に進めるとともに、学校での取組、児童の様子を家庭や地域への確に情報発信することで更に相互理解を図るようにする。
- ・学習指導については、今年度の成果と各種調査の結果を踏まえて、児童一人一人の実態に応じた工夫改善を行うことにより、学ぶことの本質的な楽しさを実感し、主体的に学びに向かう態度を育成できるよう授業改善に取り組む。
- ・児童指導については、今後も「今泉小学校あたりまえ五か条」を積極的に推進・徹底することで、基本的生活習慣の育成と規範意識の醸成を図っていく。また、教職員が組織的に対応するとともに、家庭や地域、関係機関と連携・協力しながら取り組んでいく。
- ・健康（体力・保健・食・安全）については、児童が自ら健康を保持増進するために、主体的に考え、判断し、行動することができるよう指導の工夫改善をしていく。その中で、困難さへのチャレンジや苦手なことの克服等、自己肯定感やたくましい心の育成につながる活動を重視していく。
- ・次年度も、教育効果を上げる行事・活動を行うために検討・工夫を行い、より充実した学校教育を実践できるようにしていく。